

# 宇治田原町議会だより

No. 81 2014.11.1



## 《目次》

- 9月定例会・・・・・・・・・・ 2P
- 決算特別委員会・・・・・・・・ 4P
- 委員会・・・・・・・・・・ 7P
- 意見書・・・・・・・・・・ 8P
- 6議員が町政を問う・・・・・・・・ 9P
- 議会報告会・・・・・・・・ 16P
- インタビュー（楠本正美監督）・ 17P

# と健全財政に向けて



茶園整備事業  
8,161万円



防災・安全社会資本整備事業  
2億3,785万円

橋梁長寿命化、道路舗装・補修等

ポンプの設置、暗渠排水等

平成26年第3回定例会は、9月5日から10月6日まで開催した。予算関係3件(補正)、条例関係3件、一般議案3件が提案され、原案通り可決した。また平成25年度決算7議案については、監査委員を除く11名で決算特別委員会を設置し審議、いずれも原案どおり認定した。また一般質問には6人が登壇し活発に議論を展開した。

## 各会計の決算一覧

(千円以下切捨て)

会計名		歳入	歳出	歳入歳出差引額	審議結果	
一般会計		44億5,727万円	42億8,033万円	1億7,694万円	認定 賛成9:反対2	
特別会計	国民健康保険	11億610万円	11億3,969万円	△3,358万円	認定 全員賛成	
	後期高齢者医療	8,454万円	8,410万円	44万円	認定 賛成9:反対2	
	介護保険	保険事業勘定	6億9,051万円	6億7,277万円	1,774万円	認定 全員賛成
		介護サービス	384万円	278万円	106万円	
	奥山田地区簡易水道事業	4,072万円	3,530万円	541万円	認定 全員賛成	
	公共下水道事業	5億8,098万円	5億6,840万円	1,258万円	認定 全員賛成	
水道事業会計	収益的	1億9,558万円	1億9,195万円	362万円	認定 全員賛成	
	資本的	1億4,223万円	1億9,701万円	△5,478万円		

# 平成25年度 決算をチェック！

# さらなる住民サービスの向上

9月定例会

## 実施した主な事業



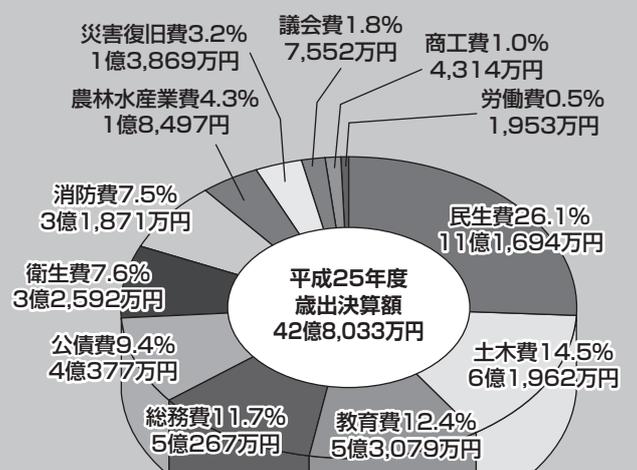
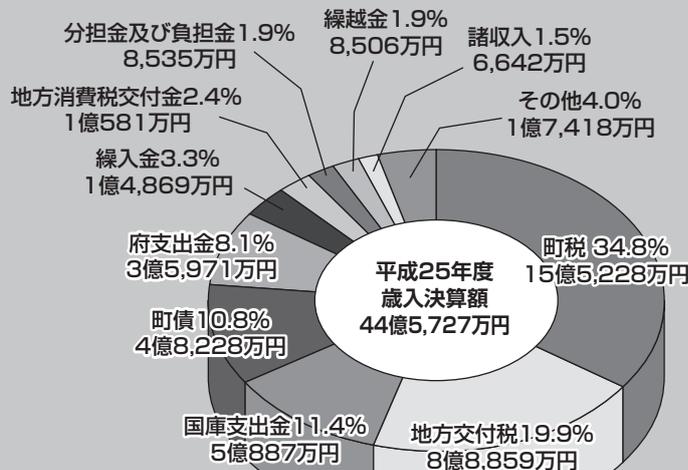
保冷機能付き給食配送車購入等



保育室等改修工事



防霜ファ



(千円以下切捨て)  
※端数整理上、決算合計額と一致しません。

# 決算特別委員会の審査

決算特別委員会は、監査委員を除く11名で設置。委員長に上林昌三氏、副委員長に山内実貴子氏を選出し、審査した。

9月25日に決算特別委員会を開会し、平成25年度一般会計、特別会計、水道事業会計について審査を行った。29日には、奥山田ふれあい空間創造事業、主要町道新設改良事業（郷之口湯屋谷線）、保育所施設機能充実事



現地審査

## 決算審査意見書(要旨)

平成25年度一般会計、特別会計、水道事業会計各会計の決算書、財政調書等を照査・審査した結果、計数的に正確であり、予算執行の成果等各会計とも良好であると認める。

現地調査についても、資料及び現地での事業状況を審査した結果、事業執行は適正であると認める。

今後においても、本町を取り巻く状況は依然として厳しい状況で推移することが予想されるが、まちの将来を見据え、中長期的な視野に立ち、なお一層、適切な事務執行に努められることを期待する。

監査委員

## 主な質疑

### 総括

【質問】

山手線の建設について、町長は最重要課題と公約しているが、いつまでに完成をと考えているのか。また建設見通しをどう見るのか。

【答弁】

現時点で具体的なスケジュール等を論ずるのは難しい。完成時期については、状況を見ながら可能な限り前倒しできるよう努めたい。

【質問】

生活道路である郷之口



スピード規制啓発看板

湯屋谷線の立川地域において、スピード規制ができないか。

【答弁】

「ゾーン30」の設定なども方策の一つと考えられる。当該路線の規制範囲を調査する中で新たな対策も視野に入れて考えていきたい。

【質問】

町診療所が開設され、約30年が経過している。本診療所が果たしてきた役割は大きなものであ

たが、現在は休診中と報告を受けている。この現状を契機として本町の医療体制のあるべき姿を検討すべきでは。

【答弁】

休診中の診療所を含め、町内の医療機関にあっては、全て内科主体となっている。必要な時に必要な診療科を受診できる体制づくりが実現できればよいが、可能性を探ってみる価値はあると考えている。

【質問】

水道使用料の見直し規定については、使用水量に見合った料金制度が求められている。実態に即した料金体系についての考えは。

【答 弁】

料金体系の見直しにあたっては、安全な水道水を安定的に供給するため、水道事業の健全な経営が行えるよう、現状の収支を維持できることを前提として、見直し案を

提示していく。今後、議会や水道事業経営等審議会から意見をいただく中、協議を行っていきたい。

【質問】

児童遊園の設置主体について、補助金交付要綱の見直しが必要では。

【答 弁】

子どもの遊び場を確保し、子育てしやすい環境を守っていくことは町の責務である。町内にある児童遊園については土地

の所有権等整理する課題はあるものの、町の責任において設置・管理していくことを基本とし、要綱の見直しを進めていく。

一般会計

【質問】

25年度決算は西谷町長の初めての決算であるが、どのような感想をもっているのか。

【答 弁】

安心安全面を重視して取り組んできた。住民の期待にはまだまだと思うが、反省も含めて今後の町政に臨んでいきたい。

【質問】

福祉バス運行について、必要性はわかるが、利用者が少ない現状を見る中で、利便性を高めるため再考すべきではないか。

【答 弁】

以前より工夫をしてきており、ルート変更や車の小型化を図ってきているのが現状である。根本的な事項については検討課題としたい。

【質問】

人口減少の中にあつて、本町での子育て施設、転入してもらええる施設として、平常時の保育の質が大切である。職員の配置基準、資格も含めて考え直すことが必要ではないか。

【答 弁】

保育の充実、質の向上を図ってきているが、選ばれる保育所をめざし、体制づくりに取り組んでいきたい。

【質問】

保育の充実について、責任をもって保育をしていくためにも、正規職員

【答 弁】

「子どもは宝」との思いは変わらない。保育所は小さな命を預かっていることを保育士全員に言っているところであり、保育の充実を図っていかねければならないと考えている。

【質問】

カーブミラーやガード

【答 弁】

住民の身近な施設等については、現地現場主義が大切であり、今年度予算に反映できる事項は反映させ、住民が納税価値を感じていただけるまちにしていくよう取り組ん

【質問】

と臨時職員では責任のあり方が違うのでは。

【答 弁】

レールなどの身近な生活周辺施設の整備等については、きちんと行政が対応する姿勢が求められるのでは。

と臨時職員では責任のあり方が違うのでは。

レールなどの身近な生活周辺施設の整備等については、きちんと行政が対応する姿勢が求められるのでは。

にしていくよう取り組ん



児童遊園



ガードレール等の生活周辺施設



保健センター

でいく。

【質 問】

茶史等編纂事業については、多額の予算をかけたおり、報告書も作成されている。有効活用を図るべきであるが、今後の取り組みは。

【答 弁】

町を全国発信するため貴重な資料と考えている。次の世代の子どもた

ちの教材としての活用、

京都府が進めている「お茶の世界遺産登録」に結びつくよう調査結果を活かしていきたい。

【質 問】

特別支援教育加配の勤務状況について、両小学校に極端に差があり、特別支援に係る環境が違うが、なぜか。

【答 弁】

欠員となった補助教員の後がなかなか決まらなかったためであり、申し分けなく思っている。

国保会計

【質 問】

医療と介護、保健の3分野において連携が強く求められているが、どのようにすれば連携が図られると考えているのか。

【答 弁】

国民健康保険においては、人間ドック助成事業の継続実施、特定健康審査の無料化による疾病の早期発見をめざし、重症化予防事業を実施。今後医療保険制度、介護保険制度を持続可能なものとしていくことが大切であり、医療費分析、レセプト点検等を行う中で健康寿命を延伸させることが

必要と考える。

介護保険会計

【質 問】

訪問調査において、認知症の方の調査については短時間では把握しにくく、介護度が低く認定されがちである。現状調査についての考え方は。

【答 弁】

訪問調査はすべて町職員が行い、家族の方からも状況を詳しく聞き取りを行っている。認知症については、一次判定に現れにくいところがあるため、審査会において追加説明を行う中で、二次判定で補足対応している。

水道事業会計

【質 問】

漏水対策について敷設替えを行う中で対応して



水道管の敷設替え工事

いるにもかかわらず、有収率が低下している。どのように考えているのか。

【答 弁】

漏水対策として、下水道の面整備の工事地区については、基本的に全て入れ替えを行っている。

下水道整備がまだ届かない地区についても、実施

できる地域から工事を実施している。

有収率については、厳しい数値と認識しており、90%に近づけるように取り組んでいきたい。

# 委員会の審議から

## 補正予算特別委員会

### 一般会計

【質問】

財政調整基金は当初予算で1億6千900万円繰り入れ、今回の補正で3千500万円落としている。これでは、決算規模を縮める。歳出を見つめるのが補正予算の財政運営。財源調整としては間違っているのでは。

【答弁】

検討の結果、9月補正計上に適切な事業が積み上げられなかった。今後繰越金の持ち方等についても検討していきたい。

【質問】

12月議会の補正予算で基金の財源を活かした事業実施を。

【答弁】

今年度、新たに取り崩さないということではない。積極的な財政運営についても検討していく。

【質問】

消防団の装備について、整備計画では5カ年となっているが、前倒しできないか。

【答弁】

今後検討し、3年程度で整えたい。

【質問】

緊急を要するとして小学校のブランコなどの修繕費が上がっているが、田原小のエントランスホールの雨水の浸入対策や、中学校の特別教室へ

の空調整備も緊急を要するのでは。

【答弁】

田原小学校のエントランスホールは、現在業者と調整中。中学校の空調については、来年度予算で考えていきたい。

【可決 全員賛成】



田原小学校エントランスホール

## 平成26年度補正した予算

(千円以下切捨て)

会計予算名		補正額	補正後の総額	審議結果	
一般会計		9,133万円	42億5,163万円	可決 全員賛成	
特別会計	国民健康保険	1,288万円	11億4,364万円	可決 全員賛成	
	介護保険	保険事業	1,126万円	7億3,353万円	可決 全員賛成
		介護サービス	96万円	332万円	

## 総務産業常任委員会

公共下水道根幹的施設の建設工事委託に関する協定の締結

【可決 全員賛成】

辺地総合整備計画(奥山田辺地)の変更

【可決 全員賛成】

郷之口湯屋谷線法面改良工事請負契約の締結

【質問】

平成26年度の工事区間で法面が崩落し、再度の工事として進めているが、急傾斜地で再び崩れることが危惧される箇所がある。どのような工法で実施するのか。また、チェック体制についても確実にすべきであるが考えは。

【答弁】

工事箇所のみならず、地域全体が急峻な地形であり、切土に対する対応策は講じていたが、豪雨により崩落した。再度のやり直しは、避けなければならぬと考えており、土質調査等を行う中で事業を予定している。また、十分な現場管理を行い、適切な対応を図っていきたい。

【可決 全員賛成】



崩落箇所(郷之口湯屋谷線)

文教厚生常任委員会

保育施設などの運営基準等を定める

【質問】

子ども子育て支援新制度は、公費支出を抑え安上がりな保育で対応しようとするもの。新制度についてどのように考えているのか。

【答 弁】

新制度は、子育て3法の趣旨に基づき、子ども

【反対】 (今西久美子議員)

新制度は保育士の資格や給食搬入において規制緩和を進め、安上がり保育を推進しようとするもの。制度が大きく変わるのに保護者への説明もない。保育制度のこれ以上の後退、営利目的の企業参入は認められない。

討論

を健全に育てていく基本をまとめたもの。施設整備が必要であり、今後、本条例を基準に保育環境の充実を図る。

【質問】

町内の幼稚園は、新制度へ移行しないと聞いている。幼保一体化の中で事業を推進してきたと思うが、どう考えているのか。

【答 弁】

府内幼稚園のほとんどが新制度に移行しないと聞いている。町と連携し、幼稚園機能を十分に発揮していただきたいと考えている。

【可決 賛成多数】

家庭的保育事業等の設備、運営の基準を定める

【質問】

保育士の資格や給食において規制が緩和されている。どの子も同じ条件で、同じ環境の中で健全に育成していくことが必要と考えるが。

【答 弁】

条例は最低基準を規定しており、常に向上させよう努めると明記している。

【可決 賛成多数】

児童保育の設備、運営に関する基準を定める

【質問】

児童福祉法改正で対象が6年生までとなったが、町としての考え方は。

【答 弁】

対象範囲を示すものであり、必ずしも6年生までというわけではない。利用ニーズを把握し、施設の状況、指導員の体制等考慮する中で検討する。

【可決 全員賛成】



学童保育

意見書

「手話言語法(仮称)」の法制化を求める

手話は言葉を音声ではなく、手や指、体などの動きや顔の表情を使う独自の語彙や文法体系をもつ言語として、聞こえる人たちの音声言語と同様、ろう者にとつての情報獲得とコミュニケーションの手段として大切に守られてきたものである。

手話が音声言語と対等な言語であることを広く国民に周知し、きこえない子どもが手話を身につけ、手話により学び、手話が自由に使え、更には手話を言語として普及、研究することのできる環境を整備することを目的とした「手話言語法(仮称)」を早期に制定するよう求める。

提出先

衆議院議長

参議院議長

内閣総理大臣

厚生労働大臣

京都府綴喜郡宇治田原町議会

【可決 全員賛成】

# 一般質問

# ズバリ！ 町政を問う

9月11日 午前10時～



## 一般質問

議員が行政全般にわたって執行機関である町に対し、事務の執行状況や方針などを質問します。

主な内容について、各議員の要約原稿を掲載しています。

	質問者	件名
1	上林昌三	1. 交通安全対策について 2. 町マスコットキャラクターの活用について
2	山内実貴子	1. 災害情報について 2. 防災訓練について
3	垣内秋弘	1. 教育委員会の体制について 2. 宇治田原山手線について 3. 奥山田地区の土砂埋め立てについて

	質問者	件名
4	谷口重和	1. 防災対策について 2. 宇治田原山手線について
5	今西久美子	1. 防災対策について 2. 教育問題について
6	原田周一	1. 介護サービスについて 2. 子ども・子育て支援について

## 傍聴のご案内

宇治田原町議会の本会議を傍聴しませんか。傍聴のためには本会議当日に町役場2階総務課で受付をしていただきます。議会の日程などはホームページ (<http://www.town.ujitawara.kyoto.jp/>) をご覧いただくか、議会事務局 (☎ 88 - 6641) までお問い合わせください。



啓発看板

# 交通安全対策の取り組みは

## 【答】取締り強化・啓発に努める

生している。

交通安全は誰しもの願いであるが、残念なこと  
に今年に入って、6月2日、さらに7月25日とた  
てつづけに、国道307号において死亡事故が発

幹線道路である国道307号は、平日は大型車  
両やダンプカー、休日は  
行楽地に向かう車やツー  
リングのバイクが多く、  
そのような中で、通過車



上林昌三 議員

両に対し安全運転の周知  
が必要と考えるが、町は  
どのような対策を講じよ  
うとしているのか。

啓発や啓発チラシの新聞  
折り込みを行い、安全運  
転を呼びかけた。

【答 弁（総務課長）】

交通安全は誰しもの願  
いであり、事故当時、緊  
急に京都府、田辺警察署、  
消防宇治田原分署、町で  
検証を行い、「速度落と  
せ」の路面表示や「交通  
死亡事故発生現場」の啓  
発看板を設置。また街頭

また、宇治田原町全体  
が交通安全のまちとして  
抑止力を高めていく必要  
があると考えており、さ  
らに啓発看板の設置や、  
警察による取り締まりの  
強化、夜間の迷惑車両の  
指導強化などの対策を講  
じたい。

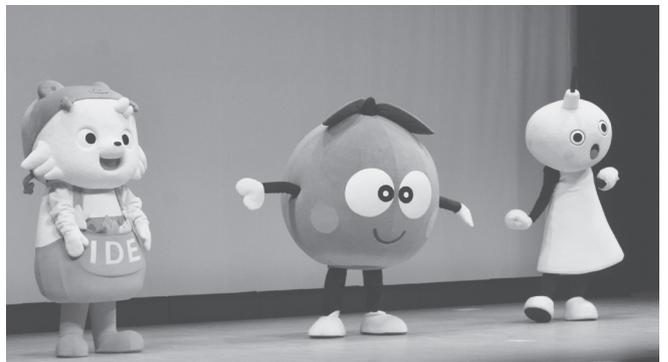
### 「茶ッピー」活用の地域振興策は

#### 【答】効果的な取り組みを推進していく

【質 問】

約10年前からマスコミ  
トキャラクターとして

「茶ッピー」が存在して  
おり、各種イベント等を  
通じ本町のPR大使的な



マスコットキャラクター「茶ッピー」

【答 弁（企画課長）】  
「茶ッピー」

は住民公募によ  
り誕生したマス  
コットキャラク  
ターであり、さ  
らなるPRの必  
要性も感じてい  
る。

連携した発信  
力の強化等を目  
的として、本年

役割、ひいてはまちづく  
り推進の一翼を担ってい  
る。今後もその活動が期  
待されるところである。  
しかし、まだまだその存  
在が広く認知されている  
とは言いがたい状況であ  
り、さらに宇治田原町の  
魅力を全国に発信するた  
めには、「茶ッピー」の  
活用による地域振興策が  
重要と考えるが。

度より京都府山城広域振  
興局管内のご当地キャラ  
の所有団体によるネット  
ワーク会議が組織され、  
本町も加盟し引き続き効  
果的な取り組みを検討、  
推進していきたい。  
今後ともこのようなさ  
まざまな取り組みを通じ  
て「茶ッピー」自身をPR  
していくとともに、ま  
ちの情報発信に努める。

# 防災マップの再確認を

## 【答】見直し予定、全戸配布、啓発に努める



山内実貴子  
議員

【質問】

防災・減災対策の中でも喫緊の課題は、いかに災害情報を正確かつ迅速に伝えるかだという。国は、衛星を利用して災害

監視機能の強化に乗り出して

している。また携帯電話への緊急速報メールの仕組みも充実をと考えられている。加えて、災害を察知した住民からSNS

【答 弁(総務課長)】

入手する情報としては、気象庁や京都府からの注意報や警報などの気象情報と大雨による土砂災害情報である。情報提供手段としては、①緊急速報メール②安心安全メールの配信。また③町

【質問】

者等にも配慮できるものとする。どのような災害が想定され、どのような行動をとるべきなのか確認する目安となるハザードマップを、もつと目に触れ確認する機会、再確認が必要ではないか。

【質問】

本年予定されている宇治田原小学校区の防災訓練は、どのような訓練を想定しているのか。

【答 弁(総務課長)】

昨年の訓練に引き続き、広範囲の訓練を実施し、防災意識の高揚を図りたい。避難訓練、自主防災会における各種訓練と自衛隊による移送訓練、消防による救助訓練を考えている。

【質問】

防災教育の一環として、小中学生、高校生大生にも家族とともに、



自主防災会による消火訓練

などで発信される情報の活用も期待されている。宇治田原町でも、災害時には住民への情報提供に取り組んでいるが、どのような情報を受け、発信しているのか。



防災マップ

による広報④テレビのデータ放送等がある。この他に自主防災組織での緊急電話連絡網があり、高齢

【答 弁(総務課長)】 防災マップは、全戸配布し、目につくところに掲示されていると認識している。また町のホームページや区公民館等の掲示によりみなさんの目に触れている。次年度以降に見直しを予定、全戸配布し、啓発に努めたい。

【質問】 防災教育の一環として、小中学生、高校生大生にも家族とともに、

【答 弁(総務課長)】 宇治田原小学校区の各自主防災会に声かけしていただく中で、老若男女を問わず多くの住民が参加できるように周知していく。



豪雨災害による復旧作業(福知山市)

### 防災訓練の参加周知は 【答】老若男女問わず声かけ周知する

# 「奥山田地区」の残土埋め立て阻止を

## 【答】住民の声を念頭に置き解決策を見いだす



垣内秋弘 議員

【質問】

奥山田の大杉地域の山林において建設残土の埋め立てを計画されている。現地の地形から判断すれば計画そのものに無理があり奥山田地区住民の不安は募るいっぽう

で、懸念を持ちながら大半の人が反対されている。安全面・防災面・環境面等を考えた時、容認するわけにはいかない。行政としての判断は。

【答 弁（建設課長）】

宇治田原C・Cの入り口付近に、約2haの山林に土砂を搬入し埋め立てる計画で、期間は3年間。跡地は山林に復旧する計画になっている。町条例について

残土搬入計画地（奥山田）

は、事前協議書の段階であり許可申請書の提出には至っていない。地元奥山田区の考えや不安要素も多数あるとの思いは理解している。

【質問】

土砂崩れや建設残土及び産廃等に係わる問題が全国的に多発している。

【答 弁（町長）】

今後開発協議を行う中で地域住民の声を念頭に置き、地域住民の理解が得られるような解決策が見いだせるよう努力していきたいと考えている。

## 新教育委員会の体制及びあり方は 【答】新教育長体制と総合教育会議の推進

【質問】

平成27年度より教育長と教育委員長が一本化され新教育長体制になる。一方で、首長と教育委員会との関係について首長

が招集して行う総合教育会議等、どのように進めていくのか。

【答 弁（町長）】

総合教育会議の設置や大綱の策定を通じて、責

任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長と教育委員会の連携強化を上、進める。

図る。大綱については教育委員会と連携、協議の

## 「山手線」早急にルートの確定を

## 【答】府との協議を踏まえ判断する



山手線

【質問】

緑苑坂から以北は新名神の工事用道路として着工が決定しているが、南地域から工業団地までの未決定区間について、路線の変更等の検討状況及び全体の進捗状況については。

【答 弁（建設課長）】

山田知事からも前向きな発言をいただく中で、山手線の道路整備に係わる計画概要を固めるかについて、府との協議を行っている最中であり、その動向により判断したい。

# 災害相互応援協定を

## 【答】東は岐阜県内、西は中国地方で考えている

【質問】

最近、毎年のように起きているゲリラ豪雨、また南海・東南海地震等がいつ発生するかわからない状況の中で、備えが必要。安心安全の観点から都道府県を越えた市町村との助け合いとして災

害相互応援協定の締結も、ひとつの方法と考え

る。地理的要件も含んだ町と、また何か共通の町づくりをしている市町村と早急に災害相互応援協定を締結する必要があると思うが。

【答】 弁(町長)

本町も安心・



豪雨で増水した犬打川 (平成 24 年 8 月)

安全の中でお互いに助け合うということが重要と思っております。東側地域では、岐阜県内、西側地域では中国地方の町村と、東西とうまく協定ができるように

鋭意進めていきたい。

【質問】

災害が発生する恐れの時、発生した時等々、防犯行政無線のデジタル化整備や住民への情報周知の同報系無線等の整備が必要であると思うが。

【答】 弁(総務課長)

情報伝達は1分1秒を争う状況となってきたのは事実。早い時期に調査をし、有利な財源も確保しながら整備に向け取り組みたい。



谷口重和  
議員

## 山手線の進捗状況は

### 【答】事業主体を府に要請する

【質問】

整備促進に向けて住民会議を立ち上げ諸活動を実践してこられたが、残り区間はいつ目処が立つのか。現在の府の対応と進捗状況は。

【答】 弁(建設課長)

今春から府と検討を始めたところであり府も前向きに事業に取り組んでいただいている。京都府に事業実施主体になっていただけるよう、努力していきたい。

【質問】

町単独で残り区間をするというシナリオを想定してみても。また国道307号の拡幅と山手線の幅員も一度も検証されていない。専門分野である田中副町長に山手線のできる確率の高い手法をききたい。ミニバイパスで終わってしまったら町の発展に希望はもてない。

【答】 弁(副町長)

事業費の大きさ、町の執行体制等、さらには現国道の渋滞状況、災害に対する脆弱性等を考えると、山手線を国道307号のバイパスとして位置付け、京都府において整備を進めていただく事が大切だと考えている。



山手線

# 『命を守る行動』の訓練を

【答】各家庭や班での話し合いの取り組みも検討する



今西久美子  
議員

【質問】

日本列島はこの夏も台風や記録的豪雨に襲われ、各地に大きな被害をもたらした。

教訓として最大のキーワードは「命を守る行動」。自分の住む地域や周辺の状況を把握し、い

ざというときに命を守るにはどのように避難すべきかを判断できるような訓練をすべきでは。

【答 弁 (総務課長)】

今年防災訓練でも避難訓練、避難所からの移送訓練など取り入れていく。いつ、どこに避難すればいいの判断は難しい。日ごろから家庭内で、どの段階で、どのルートで避難するのかを決めておくことが大事である。各家庭や地区内の班

避難訓練の様子



単位で避難について話し合いをいただけるような

取り組みも検討していきたい。

【答】学校や保護者の意見を聞いて判断する

## 少人数学級の推進を

【質問】

全国的に子どもの数が減少し、今後、町内の小学校では1学年単学級となる可能性が大きいが見通しはどうか。

【答 弁 (教育次長)】

本町でも子どもの数は右肩下がり減少している。今後1学年単学級の学級運営が強いられることが推測される。

【質問】

京都市少人数教育で

は、少人数加配をどう運用するかを、それぞれの学校の実態に合わせて選べる。ここで教育委員会の姿勢が問われている。具体的には、宇治田原

小の現2年生や4年生は現在2クラスだが、来年度1クラスになる可能性がある。府に対し、少人数加配の配置を求め、現場の教職員とも十分相談する中で、2クラスとするよう教育委員会と

なるよう教育委員会と



宇治田原小学校の1年生

しての努力を。また、田原小の現3年生と4年生は、府の少人数加配を配置し、38人で2クラスとになっているが、来年度も継続していただきたい。現場教職員の声、保護者の声、子どもたちの様子などしっかりと把握して判断を。

【答 弁 (教育長)】

京都市少人数教育では、教育委員会の判断で、少人数学級、ティーム・ティーチング、習熟度別の少人数編成を選択することが可能。今後、教育委員会として、学校や保護者の意見も十分取り入れる中で判断をしていきたい。

# 要支援者の認定増加の要因は

## 【答】認定申請事案の増加と思われる



原田周一  
議員

【質問】

平成26年4月現在、要支援1の方が50名、要支援2の方が80名と大幅に

増加している。増加の要因と今後の見込みは

認定申請の事案が増加している。要介護認定者の

【答】 弁(健康長寿課長) 社会福祉協議会において、ボランティアによる

【答】 弁(健康長寿課長) 介護保険事業計画の26

要支援1から要介護1の段階でサービス利用で抑

【答】 弁(健康長寿課長) 各種事業が展開されている。こうした取り組みが

年度推計値から、要支援1で20

【質問】 地域の特徴・独自性を踏まえて現状から見て、

【答】 弁(健康長寿課長) 末までに実施となつているため、計画策定の中で

2で30名、要支援名、要支援

【質問】 町の独自サービスはどのようになるのか。

【答】 弁(健康長寿課長) 方向性を確立していきたい。

上回っている。要介護認定者は下

【質問】 地域子育て支援センターの設置拡大は

【答】 弁(健康長寿課長) 必要なる事業量を充足できる見込み

回っている状況。要因として、医

療機関の地域連携室の積極的な活動により、

【答】 弁(福祉課長) 支援センターを拠点に

退院に向け

【質問】 町内各地で開催のおで

【答】 弁(福祉課長) おでかけ広場、園庭開放

積極的な活

【質問】 前幼児数、中でも増加し

【答】 弁(福祉課長) 00人余りの参加があつ

動により、

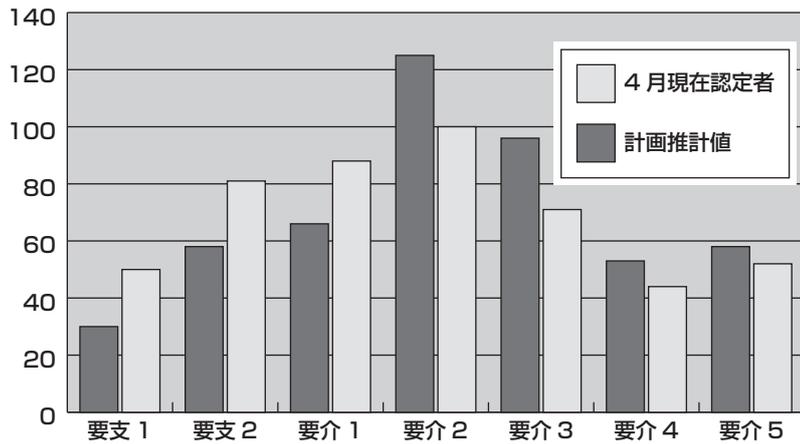
【質問】 前幼児数、中でも増加し

【答】 弁(福祉課長) 00人余りの参加があつ

退院に向け

【質問】 前幼児数、中でも増加し

【答】 弁(福祉課長) 00人余りの参加があつ



推計値と認定者数 (4月現在)



子育て支援センター

# 第1回 議会報告会

平成26年8月3日(日)、多くのみなさんにご参加いただき、第1回議会報告会を開催することができました。ありがとうございました。今回、初めての開催でしたが、住民に開かれた議会をめざし活性化の一環として、今後とも定例開催を行ってまいりますのでよろしくお願いいたします。

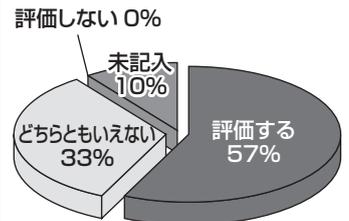


議会報告会の様子

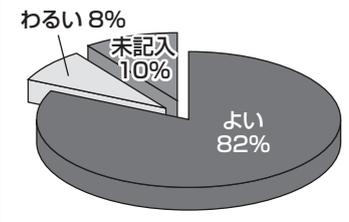
議会報告会

## アンケート結果

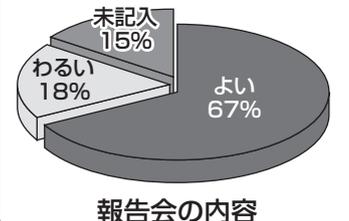
参加者 53人  
アンケート 40人



報告会の評価



開催時間帯



報告会の内容

### 議会報告会の内容に対してのご意見

・議会として町民にその活動を伝えることは大変重要で、町民の信頼に

応えるための有意義な取り組みだと思えます。毎年開催できるように是非頑張ってください。有意義な報告会であった。

・今回の報告会は参考になりました。また、次回も楽しみにしています。

・総務産業は分野も広く理解するが総合的であった。文教厚生は実態分析と課題を把握した報告で分かりやすかった。

・文教厚生は実態分析と課題を把握した報告で分かりやすかった。

### 町議会全般についてのご意見

・文教厚生は実態分析と課題を把握した報告で分かりやすかった。

※当日お寄せいただいたアンケート用紙をまとめたものです。紙面の都合上すべてのご意見を掲載することができませんでした。ご了承ください。みなさんから寄せいただきました貴重なご意見は、今後の議会活動に生かしてまいります。

・文教厚生は実態分析と課題を把握した報告で分かりやすかった。

・文教厚生は実態分析と課題を把握した報告で分かりやすかった。

・文教厚生は実態分析と課題を把握した報告で分かりやすかった。

・文教厚生は実態分析と課題を把握した報告で分かりやすかった。

・文教厚生は実態分析と課題を把握した報告で分かりやすかった。

・文教厚生は実態分析と課題を把握した報告で分かりやすかった。

(株)ニチダイ硬式野球部 監督

くすもと まさみ  
**楠本 正美** さん



インタビュー

禅定寺にホームグラウンドを持ち、2大会ぶり4回目の社会人野球 日本選手権大会に出場を決めた、ニチダイ硬式野球部 楠本正美監督にお聞きしました。

Q) 昨年の都市対抗野球の東京ドーム、また今回の京セラドームでの日本選手権出場の感想はいかがですか

A) 今年は都市対抗、日本選手権の両大会を狙っていましたが、都市対抗を落としましたが、日本選手権では、近畿地区の最終戦で勝つことができ、正直ホッとしています。

Q) 硬式野球部の部員数は

A) 監督、コーチ、マネージャー(各1名)と選手21名で、年齢は19歳~32歳です。

Q) 日常の練習時間は

A) チーム全員が社員としてフルタイム(朝6時半~午後3時半)での勤務で、午後4時~7時までが全体練習。後は各自の自主練習です。

Q) 地元宇治田原のチームとして住民の方に対しての想いは

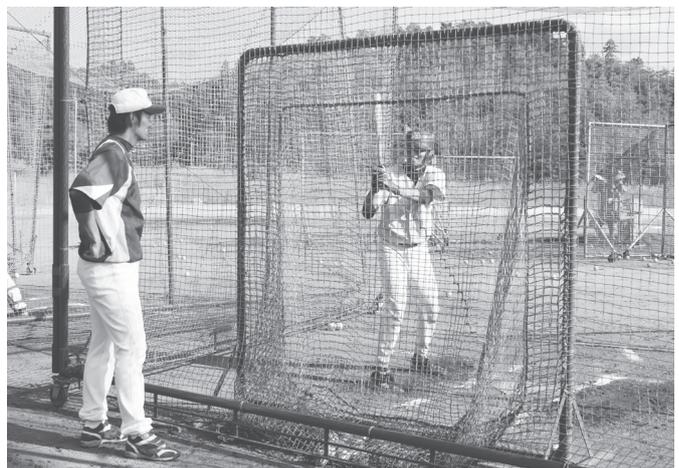
A) いつも温かい応援の声をかけてもらい感謝しています。地元宇治田原のために、都市対抗出場を果たし、東京ドームのオーロラビジョンで地元の古老柿など特産品をPRしたいですね。

Q) 地元少年野球チームに野球教室を開催されていると聞きましたが

A) 宇治田原で野球をさせてもらっていることに感謝し、年1回野球のよさをわかってもらえるよう、地元少年野球を対象に開催しています。チーム全員が少しでも地域貢献ができたらの想いで実施しています。

Q) 宇治田原の将来を夢見る子ども達に一言

A) スポーツを通じて、“明るさ”をもってほしい。また、社会に出たら役立つ「礼儀」「挨拶」のできる子ども、勝ったら喜び、負けたら悔し涙する情緒豊かな心と、強い競争心を備えた人に成長してほしいと願っています。





田原まつり王の舞



「お母さんとっしょ」(町民運動会)

まちがど  
点景



ゲートボール大会

### 今号の表紙

維孝館中学校の体育大会では、生徒たちが日ごろの練習の成果を十分発揮してくれました。みんな生き生きと、いい顔をしていましたよ。

### 編集後記

現委員による発行は、今号をもって最後となりました。委員による手作りで、限られた紙面・文字数の中で、できる限り多くの情報を掲載することや、わかりやすい言葉の使用を心がけながら作業を進めてきました。2年間住民の皆様には、どの様に映ったでしょうか。次号からは、新委員による新しい感覚での編集・発行予定です。ご意見・ご要望お寄せください。

広報編集委員会

委員長 原田 周一